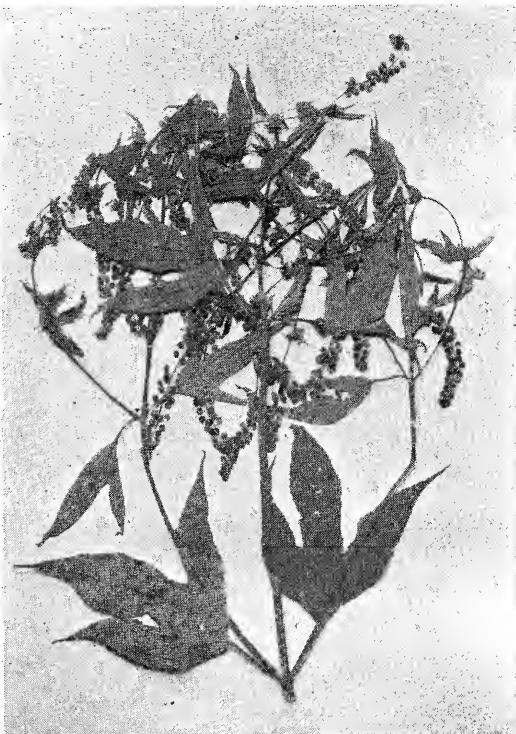


は既に山葛一海氏により採集され(1924), 同氏によりクワモドキ, ヲナモミモドキなどの和名が与えられてゐる巨大な草で, 北米原産のものである。葉は通常対生で莖の上部のものは披針状橢円形全緣であるが, 中部のものは葉幅を増してまるみをおび 1 回 2-3 中裂し, 2 中裂の場合には, しばしば裂片が不均対に対向する。下部のものは更に丸味をおび多くは 5 浅一中裂する。まことに不安定な葉形を呈する。小形の個体では往々披針状橢円形の全縁葉だけになり, 東大や科博にある山葛氏の標本中にそんのがある。つまり var. *integripolia* T. et G. といふのに該当するが余計な名

で, 個体変化に過ぎない。雄花は莖の頂部に穗状につき, 雌花は葉腋に塊状に集り, 果時には径 1.5-2 cm の固塊をなし, 少数の瘦果のみ発育して不稔花の多い固塊から著しく突出している。瘦果は中央が突起し, これを 5 個の小突起がとりまいていて, 色は淡褐色, 長さは中央突起とも 1 cm 幅 0.5 cm 位である。要するにブタクサに比し果実が大きくかつ結果率が低い。また外来植物表が 1 行ふえた。

○ナリタゴケの新産地 (建部恵潤) Yejun TATEBE: *Nanomitrium tenerum* found in Prov. Harima.

野口, 高木両教授の報告(本誌 23 卷)によると, 本邦に於けるナリタゴケの産地は, 仙台市, 越後角田, 名古屋市, 肥後荒尾市である。本種の生育環境は干上つた池沼の泥土上であるが, かかる池にはなかなか出会いにくい。筆者は昭和 25 年 1 月, 兵庫県揖保郡林田村の名勝鴨池群の池底に本種の発生を見出し多量に採取することができた。野口教授によると, var. *longifolium* (Philib.) Limpr. のカテゴリーに入るべきものの由である。稀産品であるから此處に新産地を報告する。(兵庫県宍粟郡安富中学校)



クワモドキ 千葉市で見つかったもの